

SUPER GT 第 7 戦、#23 MOTUL Niterra Z が 3 位表彰台を獲得

— SUPER GT 2026 第 7 戦レースレポート —

10月18日 オートポリス(大分県)



2026 年 SUPER GT シリーズ第 7 戦が大分県のオートポリスで開催されました。2 回のセーフティカー(SC)により展開が大きく変わる波乱のレースで、9 番手からスタートした#23 MOTUL Niterra Z(千代 勝正 / 高星 明誠)が 3 位表彰台を獲得。レース後半の激しい上位争いの末、#12 TRS IMPUL with SDG Z(平峰 一貴 / ベルトラン・バゲット)は 5 位入賞を果たしました。また、GT300 クラスでは#360 RUNUP × SOL GT-R(荒川 麟 / 金丸 ユウ / 田中 篤)が 2 位表彰台を手に入れました。#56 リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R(ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ / 木村 偉織)は 14 位に入賞してポイントを重ね、ランキング首位をキープしました。

2026 年シーズンは終盤を迎え、大分県オートポリスで第 7 戦が行われました。前戦負傷で欠場した千代は今大会から復帰し、高星とともに#23 MOTUL Niterra Z をドライブしました。今季初優勝を狙う日産/NISMO 陣営は 3 台の Nissan Z NISMO GT500 で長丁場の 3 時間レースに挑みました。なお、最終戦もてぎの土曜日に、セパン戦の代替えとなる第 3 戦が組み込まれたことによって、第 7 戦はポイント×2 kg のサクセスウェイトが課され、#12 Z は 40kg、#23 Z は 50kg、#24 リアライズコーポレーション Z(名取 鉄平 / 三宅 淳詞)は 30kg を搭載して戦いました。

【GT500】

#12 TRS IMPUL with SDG Z が予選 5 位に

予選

10 月 17 日の予選日、天候は晴れ、気温 23 度、路面温度 30 度のコンディションのもと、午後 3 時 03 分から GT500 クラスの Q1 が開始されました。各車タイヤのウォームアップを行い、Nissan Z NISMO GT500 勢は 4 周目にアタックに入り、#12 Z のバゲットが 4 番手、#23 Z の高星が 10 番手で予選 Q1 を終えました。#24 Z の名取は、Q1 突破のボーダーラインとなるトップ 10 に 0.003 秒及ばず 11 番手で Q2 進出を逃しました。

午後 3 時 41 分から GT500 クラスの Q2 がスタートしました。#12 Z の平峰は 4 周目にアタックを行い、5 番手タイムをマーク。#23 Z の千代は、僅差の争いのなか、9 番手で予選を終えています。

#23 MOTUL Niterra Z が 3 位表彰台を獲得

トップ争いに挑んだ#12 TRS IMPUL with SDG Z は 5 位入賞

決勝

10 月 18 日の決勝日は前日からの好天が続き、午後 1 時 10 分、気温 24 度、路面温度 31 度の好コンディションのも

と、フォーメーションラップがスタート。朝方からの強い風は気温が上がるとともに収まり、微風のなか 3 時間レースが幕を開けました。2 周のフォーメーションラップの後、シグナルがグリーンに。スタートダッシュを決めた#12 Z のバゲットは、第 1 コーナーで 4 番手に浮上。#23 Z の高星と#24 Z の名取は、スターティングポジションをキープして 1 周目を終えました。

レース序盤でペースを上げたのは#24 Z 名取で、4 周目、7 周目、8 周目、11 周目に前車をオーバーテイク。早めにピットインしたマシンもあり、11 周目には 6 番手にまでポジションを上げました。#12 Z も 4 番手からさらに上位に迫り、14 周目に第 2 ヘアピンで前車をパス。15 周目には上位車のピットインにより 2 番手にポジションを上げます。#23 Z はいったん#24 Z にパスされ 10 番手に後退したものの、ピットインしたマシンにより 18 周目には 8 番手まで挽回しました。同様に#24 Z も 4 番手にポジションアップを果たしています。

23 周目、#12 Z は第 2 ヘアピンでトップをとらえ首位に浮上しました。その直後、GT300 クラスのマシンがコースアウトし SC が導入されました。5 周にわたる SC 先導の後、29 周目からレースが再開されますが、すぐさま#12 Z と#24 Z がピットインし、ともにドライバー交代は行わず 1 回目のルーティン作業を行いました。他車のピットインで 3 番手までポジションを上げた#23 Z は 36 周を終えてピットイン。ドライバーは高星から千代に代わり、1 回目の作業を行います。SC のタイミングにより、早めにピットインをすませたマシンがアドバンテージを得ることになり、46 周を終えて GT500 クラスの全車が 1 回目のピット作業が終わった時点で、#12 Z は 5 番手、#24 Z は 6 番手、#23 Z は 9 番手で、レースは中盤戦に入りました。

50 周目、GT300 のマシンがコースアウトし、再び SC が導入されました。SC 中に別のマシンがコース上にストップし、SC 先導走行は 6 周にわたり、56 周目からレースが再開されました。再開後すぐに上位車が 2 回目のピットインを行い、#12 Z は再びトップに立ちました。56 周を終え#24 Z が 2 回目のピットインを行い、三宅に交代しています。

レースは残り 1 時間に近づき、#12 Z は規定ギリギリでピットインしドライバーを平峰に交代しました。#23 Z は 64 周を終えてピットインし、ドライバーは千代が引き続き担当し、2 回目の作業を行っています。ピットインにより目まぐるしく順位が変動するなか、65 周終了時点で#12 Z の平峰は 6 番手、#23 Z の千代は 7 番手、#24 Z の三宅は 14 番手を走行。この時点で 3 台が 2 回目のピット作業を行っておらず、#12 Z は実質 3 番手走行で、さらに上位を狙います。

68 周目から実質的なトップ 3 による激しい争いが展開されました。#12 Z は果敢に攻め続け、接戦を繰り広げます。しかしポジションアップは果たせず、その後ろから迫る#23 Z にポジションを明け渡しました。72 周を終え、GT500 クラスの全車が 2 回目のピット作業を終えた時点で、#23 Z は 3 番手、#12 Z が 4 番手、#24 Z が 12 番手でレースは終盤戦に向かいました。

#23 Z は終盤ペースを上げ、2 番手に迫り、その差を 1 秒以内にまで詰めました。しかし、周回遅れの処理などで徐々にその差は開き、後続車が迫る展開となります。#12 Z も最終盤に後続に詰められ、92 周目に 5 番手に。#23 Z は、最終盤の接近戦で後続を抑えポジションを死守、戦略が奏功し 3 位で 3 時間レースのチェッカーフラッグを受けました。#12 Z も後続に迫られながら 5 番手を守り切ってゴール。2 台の Nissan Z NISMO GT500 が上位フィニッシュを果たしました。#24 Z は入賞目前の 11 位でレースを終えています。

Nissan Z NISMO GT500 は第 2 戦富士以来の 3 位表彰台を獲得し、第 7 戦を終えました。最終戦となるモビリティリゾートもてぎでの大会は、第 3 戦セパン戦の代替レースを 11 月 7 日(土)に、第 8 戦を 11 月 8 日(日)に行うスケジュールとなっています。シーズンは残り 2 戦となり、日産/NISMO 陣営は勝利を目指して全力を尽くします。

千代 勝正 選手(#23 MOTUL Niterra Z)

「前戦では骨折してしまい、迷惑かけた分をお返ししたかったので、その思いを今日の走りに全部注いだ感じです。予選順位はなかなか厳しかったですが、チームを盛り上げるレースをしたかったので、戦略も含めて、ドライバーふたりも踏ん張って、表彰台まで来ることができました。まだ課題も残りますが、僕らが持っている力を出し切ったレースでしたし、ドライバーとしてもライバルとの争いでは競り負けたくなかったので気合いを入れて走りました。残り 2 戦はサクセスウェイトも減りますし、距離も短いのでスピード勝負になると思っています。いま足りていない部分をこの短い期間でクリアして、一発の速さを引き出すことに集中していきたいですね」

高星 明誠 選手(#23 MOTUL Niterra Z)

「土曜日の走り出しからセットアップなどで苦しんだ部分もありましたが、ファーストスティントを最大限長くとしたことが戦略的にも機能したのだと思います。後半 2 スティントは千代選手が担当してくれましたが、耐えることしかできない場面もあったなかで、それを走り抜いてくれたことも 3 位入賞につながりました。今回はすべてを出し切ったと思え

る 3 位でした。次のモビリティリゾートもてぎの 2 戦では、サクセスウェイトを積んでいるライバルがもっと軽くなってくる状況なので、僕たちもさらに食欲にパフォーマンスを追求していかなければと思っています」

【GT300】

GT300 クラスには 4 台の Nissan GT-R NISMO GT3 と、2 台の GTA GT300 規則のフェアレディ Z が参戦しました。予選 28 番手からスタートした#360 RUNUP × SOL GT-R(荒川 麟 / 金丸 ユウ / 田中 篤)が躍進し 2 位表彰台を獲得。また、#62 HELM MOTORSPORTS GT-R(平木 湧也 / 平木 玲次)が 8 位、#26 ANEST IWATA GAINER Z (安田 裕信 / リ・ジョンウ / 三井 優介)が 9 位、#56 リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R(ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ / 木村 偉織)が 14 位に入賞し、日産勢 4 台がポイントを積み重ねました。#56 GT-R はランキング首位をキープし、最終 2 戦へと向かいます。

【GT500決勝 結果】 98Laps

Pos	No	Machine	Driver	Time / Behind
1	100	STANLEY HRC PRELUDE-GT	山本 尚貴 / 牧野 任祐	3:01' 37.269
2	38	KeePer CERUMO GR Supra	大湯 都史樹 / 小林 利徠斗	1.363
3	23	MOTUL Niterra Z	千代 勝正 / 高星 明誠	7.972
5	12	TRS IMPUL with SDG Z	平峰 一貴 / ベルトラン・バゲット	10.065
11	24	リアライズコーポレーション Z	名取 鉄平 / 三宅 淳詞	54.661

【GT300決勝 結果】 93Laps

Pos	No	Machine	Driver	Time / Behind
1	96	K-tunes RC F GT3	新田 守男 / 高木 真一	3:01' 56.731
2	360	RUNUP × SOL GT-R	荒川 麟 / 金丸 ユウ / 田中 篤	25.828
3	65	LEON PYRAMID AMG	蒲生 尚弥 / 菅波 冬悟 / 黒澤 治樹	39.934
8	62	HELM MOTORSPORTS GT-R	平木 湧也 / 平木 玲次	1' 22.383
9	26	ANEST IWATA GAINER Z	安田 裕信 / リ・ジョンウ / 三井 優介	1' 27.352
14	56	リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R	ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ / 木村 偉織	1Lap
25	11	GAINER TANAX Z	富田 竜一郎 / 大木 一輝	7Laps
27	48	健康ケーズフロンティア WM ニルズ GT-R	井田 太陽 / ジェームス・ブル / 藤原 大暉	17Laps

以上